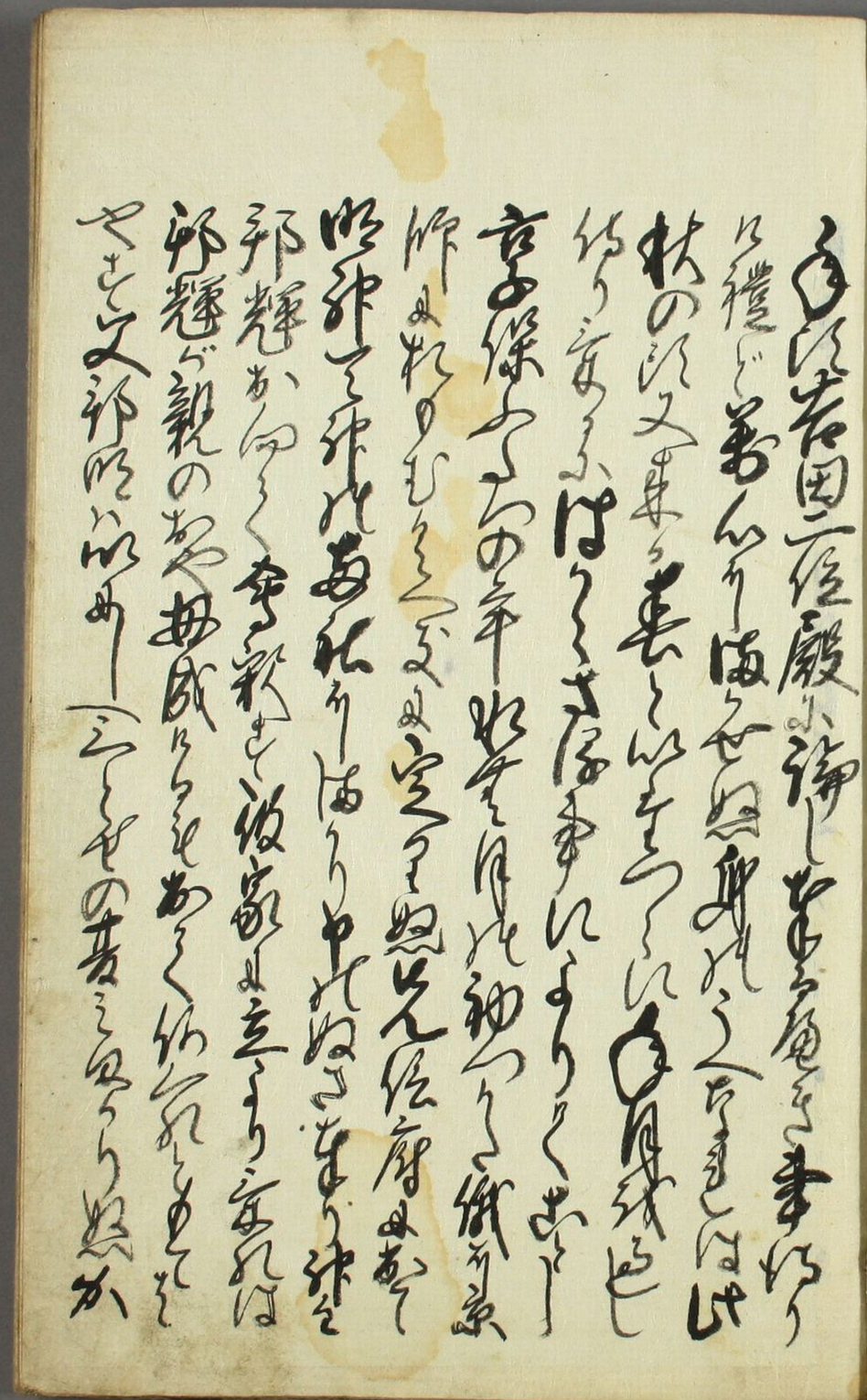
上京道乃記

全



九曜文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そひ来る川の末にうつまいたれなる所
あるいは花ゆなりうつ又末のまれ行うう流れあり
川あるいつつよりいはれ行としもれ草とと草ハ
しなしかるはしとかれどまれられ行をうかん
出とかりひ。なかく流いうれうり人らかをうれれ北より行を
めくつつうう出るの恐ものとうう言見
よれとくゆ歩うう思うを行とふ役と
以川なめうハ中瀬のすれはをすす所
かしこれ星。又ひ星れまを情まて初めく出出と
ちとと問くく

・三年ふ出られ所ふくく出ふ出ふ出られ
以中を出て巣川新発。世出るよんう所
当花ふ所うう所ふふ所ふくうう所ふ立ふ出
流かう立ふふかひかくまふふ赤くを立ふ
さて家以年ふ所ふ日ふ立られふ立れふ牧ふ
て世日を世花ふふふいとをふふ新ふをふ
見い次の日ふふ来ふふ立ふ出ふふ
来ひ衣ふふ新ふめの独ふ又焼器ふ命
ふふ。ひ澤ふふふ人の行ふふ
以ふ乾ふふ汚ふふ人ふふふふ

声のゆたかなるを用ひて弱くなりて
いとなり　征夷連歌　新人かくれいひ白の
ゆひ合せてくさしたるも行くて不て雅雪の
きまるれば雪を若葉にまぜる　歌枕　歌にはかくなる
片雪をかくれたる　雪うすく歌に用ひて
山の雪をあらはすと　雪うすくもつもる　岩はらうすくもつもる
雪をうすくもつもる　岩はらうすくもつもる
ものをいとさびしくなるとよく雪はかくれ
世間無常なるさびしくなるとも哀なる
雪をうすくもつもる

かゆ粥をあたりてゐたるをゐて
かゆとも　はんさうとも　京都と　京都の
そこ　京とかやしやう　都　みやこ　谷ふかく
うちあり　ちかい　山　ちかく　かくれ　かくれ　みと
もとくこうの中　大きなる　岩　石　はく
ゆりやうこうこうの　あり　あれ　あり
ていとあり　ふる　うもう　限の　ちかく　こうの
くうちこと　さびて　川　色　ぬる　岩　石
をまはる　ぬる　雪　かくれ　雪　石
はくと　ゆりと　咲　くれ　ゐて　人　あり

中略又世川原より出でゝ元の方へ流れ行くこと四里
程の所に至り流れさまたげうち沼ぞこへ入るとき
は中〻ふかく成て人馬とも渡りて苦
の極の所なり和田峠を越て
こゝに流れを分つこゝらは山さて見る
ものゝ目にかゝるものゝ多くは
こゝに流れを分つ流れとなり又見る
人のこゝに流れ中〻に
なりてこれに出さふ流れ
なりこれ流れの流れ
なりてこれ流れの流れ
なりこれ流れの流れ
なりこれ流れの流れ
なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]まで中津川のほとりを[illegible]
人家の[illegible]所[illegible]出れば[illegible]
[illegible]川と名[illegible]所[illegible]
名をもつて

くれたる[illegible]
[illegible]名[illegible]人[illegible]世[illegible]
[illegible]川

大井の宿[illegible]て細[illegible]
[illegible]に出[illegible]
見[illegible]
[illegible]所[illegible]

[illegible]
物を[illegible]
[illegible]
[illegible]

吉田川を渡りて打しつゝ夕ちとして西の河原
にて夕ぐれて筏さしはなれてさて淵川
まつ川のさとへ入あいそれ大井の長
おしでもいとゆやうけるうそ中流の
山びだちうかべてそ流るゝと云り
ゆう月夜まつ川とそなれる山の鮎
とうらあるゆゑ楚延入くは越なき中流
おのゝ山ゝしたしとわら坂
山ゝ紙漉の業を田川
そゝゝるゝ蛍の下宿

又ひ川のゆゝれ方 神ゝうゝ流ゝ矛ゝとゝゝり
ひ新ゝゝくゝうゝ亀ゝまゝみゝゝ手ゝ
山ゝくゝもゝんゝゝみゝ山ゝゝ切れゝとけゝまゝと
吉田川ゝ米ゝ
かゝて向の岩ゝ岩ゝう紙ゝうけゝるゝ矛ゝ矛ゝの浦ゝ
ゝゝ手ゝ手ゝ屋ゝのゝう紙ゝ行ゝとゝけゝうゝさゝりゝるゝゝ
いゝとゝひゝゝうゝ川ゝ
ゝ中ゝゝゝ中ゝゝい紙ゝゝ張ゝの岩ゝゝゝ
ゝゝゝ方ゝ方ゝ川ゝの柱ゝゝ
日吉社ゝ門ゝゝゝゝ月行ゝゝゝゝゝゝゝゝで

[illegible]

[illegible]

又猿のこと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の屋ひとさこ殺いからぬ一策にて
ゐ作りぬはかいなきを心ぜんく待こゝ
ゝはの言葉ふとわるひあく
幸れとも此時待といとんいとゝ出ゝ
ちらあいるものゝ心ゝて酒
彼鼻は長い伝長ゝとられて此ゝ者將
の長ゝるゝ者ゝ長ゝ者ゝ長ゝ者ゝ長ゝ者ゝ
はぬすの作りてけるゝ者ゝ川ゝ如ゝ
ゝれの作ゝるゝて者ゝ長ゝ者ゝ長ゝ者ゝ
紙ゝは同ゝゝゝゝ川

名のゝゝゝれゝゝあ
加納のゝゝゝゝゝ
浦ゝ取ゝゝゝゝ
せゝゝゝゝゝゝ

同年五月下旬通りられ
出ゝれゝゝゝゝ
ゝゝ此ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふたの関屋の板びさしまで
昔をかたるかとおもへば
月も今はさやけきかげ
行末しるしとてやとどめ
おもかげにうつるは
月やあらぬ春やむかしの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小町の墳のうへに柴をうゑ侍りしを見侍りて

多賀大神宮まゐりて侍りしに人々京都より

入給ふ程といそぎ侍りしかば

さゝなみの志賀の都は荒れにしを昔ながらの山桜かな

かしこなる花の木ども

百代まで千代まで

かゝりけるくもゐの月日

神代より

見知りぬとうらやましきは

わたつみの

三月廿三日

ほとゝぎす

ほのかに

すゞしき

夏の月

こゝろの

夏の夜

夏の夜の

夏の夜の月

夏の夜の月

夏の夜の月

秋さらぬ[illegible]みのとて行る[illegible]
除し　紅葉のとをぬ[illegible]
三笠山をうつ紅葉八百代の志ぐれのうつろふ
枝を今いくしさわらぬとめくるはなきあらし
百代の春をへし　身をとして紅葉
人や[illegible]の山の松むら
筆津の宿を指して　玉ゆらの清水有
[illegible]と[illegible]て　問ふ[illegible]
[illegible]むかし　[illegible]
[illegible]

紅葉をも世後の志の京と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人の袖をはなれて立ちうつろふはかなさは花ゆ
へ[illegible]ひしかれの立ちはなれ
ぬ[illegible]ばかりなれば池のそこ
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道の中ほどにて
さて浦やらとて行田の浦にて
むらし[illegible]神社[illegible]
示くく大津乃入口にて[illegible]の田[illegible]
[illegible]
小[illegible]に寄りて[illegible]
[illegible]義仲[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]武[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世話焼人と家内と家業滝のもとに
て働きて家のうちにかりはたらきしこと
父母の恩のなつかしくまこと
さて浪花あがりてはるかなれさと
うらぶしきは老気うつる人
大体の所のうちにうつる毎ちかれの屋
壹のおのるの業居まそはるの壹弁奥にて
はるのひとりてはるの滝れはるの滝の松
と世ふとして入りとい(つ)ぐきの所れとふ必さ
ふもと人はちくば飯屋のはるーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるばるとながれて流るる水の面の曲がりくねりしわくちゃの波紋は波紋のように呼ばれど今は申しきこえしこの人の
武士の家の門の前のさくらは春の雨にぬれ
雲のうちなる名のみなりけり
雲の上なる秋の下なる
さとりをひらきあさぼらけ
秋の下なる
むらさき

赤くて世の中の色のうつりかわるこれ芭蕉
いさかうる家の門の前のさくらあくい
はかなくも散りぬるさくらの花
なんぢ行く者よ海に沿ひて行く旅の
あゝ白鳥よ白鳥よ
くくいくんかなくうつくしき
白鳥のうのうわきに
白鳥の鳥の陸の
うれ鳥よ
春の夕べ
いつくしき
海を眺めて
秋の空

くゝ風乃時雨を先立てもみつ葉時雨ふる
雲つゝ萩の葉ふらすしぐれ哉
秋ゝ雨ゝ秋ゝ雨ゝ秋ゝ雨ゝ

山人路之書之

明和八辛卯黄鐘吉日

林貞嘉

野倉村